

第11回	生徒指導・進路指導との関連	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第12回	家庭・地域・関係機関との連携	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第13回	指導計画の作成と評価	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第14回	実践上の危機管理	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第15回	特別活動の意義・目標、内容、実際についての総括	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間

科目名	生徒指導・進路指導論			開講年度	2022年度秋学期			
担当者	市原 由美子			配当年次	234			
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	生徒の個性尊重と自立をめざす生徒指導・進路指導の研究・展開と教師の指導力							
授業の目的及び概要	<p>生徒指導・進路指導およびキャリア教育について、その意義や基本的な考え方、その実践的な在り方について学習する。</p> <p>1) 今日の中学生・高校生の学校内外の生活と学びの実態を知り、それらをどのように捉えるのか、さらにそれらの問題点、課題について理解を深める。</p> <p>2) 上記1)の理解に基づいて、生徒指導・進路指導のあり方、方法について理解し、考察する。</p> <p>3) 懲戒・体罰など生徒指導の関わる法令について理解するとともに、学級づくり、不登校、いじめ、暴力行為など生徒指導上の課題と対応の基本的な考え方を理解する。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html							
学修の到達目標	<p>生徒指導および進路指導は、生徒の人格を尊重し個性のより良い伸長を図りながら、社会の担い手としての資質や行動力を高めつつ、将来の進路選択と、その後の生活への適応に向けて、キャリア教育の視点も加えて、組織的・継続的に行われる教育活動である。</p> <p>この科目においては、以下の4点を到達目標としている。</p> <p>1) 生徒指導、進路指導の意義や原理、教育課程上の位置づけについて理解する。</p> <p>2) 学級、学年などの集団指導や個別指導による生徒指導の進め方や進路指導・キャリア教育の考え方と指導のあり方を理解する。</p> <p>3) 生徒指導上の課題や教職員、学校外の専門家などとの連携を含めた対応の在り方を理解する。</p> <p>4) 生徒が自らの生きる道(=進路)を切り開くための進路指導・キャリア教育の課題とそれに対する指導の考え方とあり方を理解する。</p>							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。							
フィードバックの方法	<p>① 受講生が提出した「授業内レポート」に対して毎回コメントを書いて返却する。さらに対面授業においては、受講生同士が相互評価や課題点を指摘しあう。</p> <p>② 課題に対する意欲や成果を書面だけではなく、面談または受講生全体の中で評価する。</p> <p>③ レポートについては添削して返却する。</p>							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	授業時に配布するプリント、新聞記事など					ISBN	定まったテキストは使用しない	
参考書	「生徒指導提要」(文部科学省)					ISBN	定まったテキストは使用しない	
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	30	小テスト・理解度テストなど(%)	10	レポートなど授業外課題(%)	20	中間試験(%)	10
	レポート試験(%)	10	定期試験(%)	20	その他(%)			
この科目の履修にあたって	今日の教育とくに中学校・高校教育、そして中学生・高校生一人ひとりにさまざまな問題・課題がある。また生徒たちの家庭にも課題は多い。さらに生徒たちが生きている社会にも問題や課題は多い。学校教育はそれから離れてはあり得ないし成り立たない。教師自らがこの教育・社会・世界の現在の問題と未来の課題にどう関わって生きていくかが問われていると言える。生徒指導・進路指導は教科指導とともに教育の原点であることから、指導論の学びを通して力をつけてほしい。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、Universal Passportの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	生徒指導・進路指導の意義と原理	事前 自分の受けてきた生徒指導・進路指導を振り返りその問題点を考える 事後 本来の生徒指導・進路指導とは何かを理解し、そのあり方を考える。	4時間
第2回	生徒の生活実態・課題の把握と生徒指導	事前 今日の生徒の学校生活・くらしの状況、その意識などを知る。 事後 今日の生徒の状況の背景と学校・教職員の課題を考える。	4時間
第3回	生徒の生活実態・課題のとらえ方と生徒指導のあり方、考え方	事前 自身の学校生活を振り返り生徒への集団的な指導と個別指導の大切さを考える。 事後 生徒指導における集団的指導と個別指導のあり方を確認し実践的課題を考える。	4時間
第4回	生徒の発達段階と課題 ① 不登校、ひきこもりなどを通して考える	事前 不登校・ひきこもりの現状、生徒の思いや願いを知る。 事後 不登校・ひきこもりの生徒への学校・教職員の対応のあり方を確認し、実践的課題を考える。	4時間

第5回	生徒の発達段階と課題② 発達障害などを通して考える	事前 発達障害を知る。 事後 発達障害を理解し、教職員の実践的課題を考える。	4時間
第6回	集団生活と生徒指導① いじめ問題を通して考える	事前 いじめ問題の実態と背景を知る。 事後 いじめ問題に対応する教職員の実践的課題を考える。	4時間
第7回	集団生活と生徒指導② 学級づくり、学級のとりくみを通して考える	事前 自身の学級での生活を振り返り学級とは何かを考える。 事後 学級指導の意義・目的・あり方を確認し学級担任の実践的課題を考える。	4時間
第8回	集団生活と生徒指導③ 学年、学校のとりくみを通して考える	事前 自身の生徒会活動・学校行事などを振り返りその問題点や課題を考える。 事後 生徒会活動・学校行事の意義を理解しその指導のあり方について考える。	4時間
第9回	集団生活と生徒指導④ 部活動を通して考える	事前 自身の部活動の経験からその意義を確かめるとともに現状や課題を知る。 事後 部活動の持つ意義を理解し、その現状とこれからのあり方考える。	4時間
第10回	家庭と生徒指導 家庭の問題と生徒指導について考える	事前 保護者・家庭と教職員の関係の現状を考える。 事後 学校現場での保護者との関係づくりの実践的課題を考える。	4時間
第11回	教職員集団と生徒指導 教職員集団や教職員のあり方から考える	事前 個々の教職員と学年・学校の教職員集団との連携・共同関係の現状を考える。 事後 現場での教職員相互の共同関係づくりを考える。	4時間
第12回	進路指導の概念と目標	事前 自分の受けてきた進路指導を振り返り、本来の進路指導とは何かを考える。 事後 本来の進路指導とは何かを確認し教職員の課題を考える。	4時間
第13回	生徒のキャリア・進路と学習・学力	事前 キャリア教育とは本来何かを知り、人間にとって学習・学力とは何かを考える。 事後 キャリア教育の本来のあり方を確認する。	4時間
第14回	キャリア教育と進路指導のあり方	事前 本来のキャリア教育・進路指導とは何かを考える。 事後 学校現場でのキャリア教育・進路指導のあり方と実践的課題を考える。	4時間
第15回	生徒指導、進路指導、キャリア教育の総括	事前 全授業を通して、今日の学校における生徒指導・進路指導のあり方と実践的課題を考える。 事後 今日の生徒指導・進路指導の実践的課題を再確認する。	4時間

科目名	生徒指導・進路指導論			開講年度	2022年度春学期			
担当者	市原 由美子			配当年次	234			
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	生徒の個性尊重と自立をめざす生徒指導・進路指導の研究・展開と教師の指導力							
授業の目的及び概要	生徒指導・進路指導およびキャリア教育について、その意義や基本的な考え方、その実践的な在り方について学習する。 1) 今日の中学生・高校生の学校内外の生活と学びの実態を知り、それらをどのように捉えるのか、さらにそれらの問題点、課題について理解を深める。 2) 上記1)の理解に基づいて、生徒指導・進路指導のあり方、方法について理解し、考察する。 3) 懲戒・体罰など生徒指導の関わる法令について理解するとともに、学級づくり、不登校、いじめ、暴力行為など生徒指導上の課題と対応の基本的な考え方を理解する。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html							
学修の到達目標	生徒指導および進路指導は、生徒の人格を尊重し個性のより良い伸長を図りながら、社会の担い手としての資質や行動力を高めつつ、将来の進路選択と、その後の生活への適応に向けて、キャリア教育の視点も加えて、組織的・継続的に行われる教育活動である。 この科目においては、以下の4点を到達目標としている。 1) 生徒指導、進路指導の意義や原理、教育課程上の位置づけについて理解する。 2) 学級、学年などの集団指導や個別指導による生徒指導の進め方や進路指導・キャリア教育の考え方と指導のあり方を理解する。 3) 生徒指導上の課題や教職員、学校外の専門家などとの連携を含めた対応の在り方を理解する。 4) 生徒が自らの生きる道(=進路)を切り開くための進路指導・キャリア教育の課題とそれに対する指導の考え方とあり方を理解する。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。							
フィードバックの方法	① 受講生が提出した「授業内レポート」に対して毎回コメントを書いて返却する。さらに対面授業においては、受講生同士が相互評価や課題点を指摘しあう。 ② 課題に対する意欲や成果を書面だけではなく、面談または受講生全体の中で評価する。 ③ レポートについては添削して返却する。							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	授業時に配布するプリント、新聞記事など			ISBN	定まったテキストは使用しない			
参考書	「生徒指導提要」(文部科学省)			ISBN	定まったテキストは使用しない			
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	30	小テスト・理解度テストなど(%)	10	レポートなど授業外課題(%)	20	中間試験(%)	10
	レポート試験(%)	10	定期試験(%)	20	その他(%)			
この科目の履修にあたって	今日の教育とくに中学校・高校教育、そして中学生・高校生一人ひとりにさまざまな問題・課題がある。また生徒たちの家庭にも課題は多い。さらに生徒たちが生きている社会にも問題や課題は多い。学校教育はそれから離れてはあり得ないし成り立たない。教師自らがこの教育・社会・世界の現在の問題と未来の課題にどう関わって生きていくかが問われていると言える。生徒指導・進路指導は教科指導とともに教育の原点であることから、指導論の学びを通して力をつけてほしい。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、Universal Passportの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	生徒指導・進路指導の意義と原理	事前 自分の受けてきた生徒指導・進路指導を振り返りその問題点を考える 事後 本来の生徒指導・進路指導とは何かを理解し、そのあり方を考える。	4時間
第2回	生徒の生活実態・課題の把握と生徒指導	事前 今日の生徒の学校生活・くらしの状況、その意識などを知る。 事後 今日の生徒の状況の背景と学校・教職員の課題を考える。	4時間
第3回	生徒の生活実態・課題のとらえ方と生徒指導のあり方、考え方	事前 自身の学校生活を振り返り生徒への集団的な指導と個別指導の大切さを考える。 事後 生徒指導における集団的指導と個別指導のあり方を確認し実践的課題を考える。	4時間
第4回	生徒の発達段階と課題 ① 不登校、ひきこもりなどを通して考える	事前 不登校・ひきこもりの現状、生徒の思いや願いを知る。 事後 不登校・ひきこもりの生徒への学校・教職員の対応のあり方を確認し、実践的課題を考える。	4時間

第5回	生徒の発達段階と課題② 発達障害などを通して考える	事前 発達障害を知る。 事後 発達障害を理解し、教職員の実践的課題を考える。	4時間
第6回	集団生活と生徒指導① いじめ問題を通して考える	事前 いじめ問題の実態と背景を知る。 事後 いじめ問題に対応する教職員の実践的課題を考える。	4時間
第7回	集団生活と生徒指導② 学級づくり、学級のとりくみを通して考える	事前 自身の学級での生活を振り返り学級とは何かを考える。 事後 学級指導の意義・目的・あり方を確認し学級担任の実践的課題を考える。	4時間
第8回	集団生活と生徒指導③ 学年、学校のとりくみを通して考える	事前 自身の生徒会活動・学校行事などを振り返りその問題点や課題を考える。 事後 生徒会活動・学校行事の意義を理解しその指導のあり方について考える。	4時間
第9回	集団生活と生徒指導④ 部活動を通して考える	事前 自身の部活動の経験からその意義を確かめるとともに現状や課題を知る。 事後 部活動の持つ意義を理解し、その現状とこれからのあり方を考える。	4時間
第10回	家庭と生徒指導 家庭の問題と生徒指導について考える	事前 保護者・家庭と教職員の関係の現状を考える。 事後 学校現場での保護者との関係づくりの実践的課題を考える。	4時間
第11回	教職員集団と生徒指導 教職員集団や教職員のあり方から考える	事前 個々の教職員と学年・学校の教職員集団との連携・共同関係の現状を考える。 事後 現場での教職員相互の共同関係づくりを考える。	4時間
第12回	進路指導の概念と目標	事前 自分の受けてきた進路指導を振り返り、本来の進路指導とは何かを考える。 事後 本来の進路指導とは何かを確認し教職員の課題を考える。	4時間
第13回	生徒のキャリア・進路と学習・学力	事前 キャリア教育とは本来何かを知り、人間にとって学習・学力とは何かを考える。 事後 キャリア教育の本来のあり方を確認する。	4時間
第14回	キャリア教育と進路指導のあり方	事前 本来のキャリア教育・進路指導とは何かを考える。 事後 学校現場でのキャリア教育・進路指導のあり方と実践的課題を考える。	4時間
第15回	生徒指導、進路指導、キャリア教育の総括	事前 全授業を通して、今日の学校における生徒指導・進路指導のあり方と実践的課題を考える。 事後 今日の生徒指導・進路指導の実践的課題を再確認する。	4時間

科目名	教育相談論		開講年度	2022年度春学期				
担当者	梅川 康治		配当年次	34				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	カウンセリングの知見を活かした教育相談							
授業の目的及び概要	<p>・この科目は、教員免許取得者としての必須の知識を習得するための授業である。</p> <p>・教育相談の基本は、生徒自身の自己理解と他者との適切な関係構築を支援することにある。</p> <p>この観点の基本として、まず教育相談の教育現場に必要な課題意識や理論、方法について学習する。</p> <p>具体的には、生徒の発達状況に応じた行動の理解やカウンセリングに関する基礎的知識(意義・理論・技法)などを学習し、さらにこれらの知識を持って教育相談の具体的な事例を取り上げつつ、学び、理解を深める。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html							
学修の到達目標	<p>この科目における、学修の到達目標は以下の4点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育における教育相談の意義・役割について理解している。 2. 教育相談に関するさまざまな理論や方法について理解し、その概ねを説明できる。 3. 教育相談がしうるカウンセリングの基礎的知識、技法について理解を深める。 4. 教育相談の具体的な進め方の要点、学校の組織的な取り組みと専門家などとの連携の必要性を理解している。 							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。							
フィードバックの方法	毎回の授業終了時に、授業についての理解・質問・意見・感想を記述するミニレポートの課題提出があります。その内容に関して、次の授業時に、補足説明をし、守秘義務を守りつつ回答します。そのことにより、受講者個々の理解促進と受講者全員の共通理解を図ります。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	テキストは使用しません。配布プリントを使用します。			ISBN	なし			
参考書	参考書は、必要に応じて授業時に紹介します。			ISBN				
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	50	その他(%)			
この科目の履修にあたって	受講者自身のコミュニケーションのスキルアップに役立ちます。また、教育関係の仕事だけでなく、広く社会の様々な分野に応用できる理論と実践を学べます。積極的に受講することで、「受講者自身の学校体験」を見つめ直し、対人援助に役立つ具体的な方法を知ることができます。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、Universal Passportの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	現状の教育の課題を解説する。不登校やいじめの問題、自死や不適応行動などに関する生徒の現状を解説する。「学校教育でのカウンセリングとは何か」を実践的な見地から解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第2回	心理学の基礎理論や概念について、最新の知見を取り込みながら具体的な事例の紹介とともに解説する。カウンセリングと心理療法の違い、教育に使えるカウンセリングなど、具体的な活用例を紹介しながら解説する。傾聴のポイントを具体例を紹介しながら解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第3回	児童生徒の不適応行動に対する捉え方について、事例を通して解説する。教育相談における心の問題と不適応行動に関するこれまでの経緯と対応も含めて解説し、受講者の学習課題意識を促す。受講者は自己の価値観や視点を見つめ直す機会とする。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第4回	いじめについて、現状の問題点や課題について解説する。生徒の発達段階や課題に応じた具体的な対応策を紹介する。また、心理・医療・福祉・法律等の専門家や機関との連携について紹介する。新聞やネットの記事などにも普段から注意しておく。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第5回	教育相談における査定法としての心理検査の意義と役割について解説する。自己理解と他者理解について、心理検査等を活用して自身の傾向を知ることで、自己と他者の理解を深める。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第6回	教育相談に有用な検査の技法と実際例を紹介し、心理検査の結果の利用法を解説する。学校現場における活用例も紹介する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間

第7回	教育におけるカウンセリングについて、実際の場面での技法などを具体的に紹介する。また、仮想事例を基に教育相談の進め方を解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第8回	人間関係づくりに役立つワークや参考書の紹介をする。教育相談に必要な技法論(受容・傾聴・共感等)の具体的な進め方を事例を通して解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第9回	カウンセリングをするにあたり、簡潔に質問するなどの技法のポイントを紹介する。事例を通して教育相談における基礎的な技法や態度の理解を深める。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第10回	教育相談に必要な物理的・人的条件、教師間及び他の専門家(機関)との連携などについて解説する。チームとしての組織的な取り組みについて具体例を紹介し、解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第11回	保護者との教育相談について、事例を通して解説する。保護者の抱える悩みや役割、家族の抱える問題、保護者との相談のあり方など、具体的な進め方を紹介し解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第12回	発達や不登校などの課題を抱える生徒の保護者との相談の中で、陥りがちな問題点を紹介し、連携の方法を解説する。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの役割等について解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第13回	いじめや虐待の事例を通して、教育相談における具体的な対応を紹介し、解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第14回	生徒の心の問題や不適応行動などの解決の手段としてピア・サポート活動などのトレーニング内容や取り組みを紹介し、支援の方法を解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第15回	本授業で学修したこれまでの内容を整理し、それらを踏まえて生徒の心の健康とケアに資する教師の役割と意義について解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間

科目名	教育相談論		開講年度	2022年度秋学期				
担当者	梅川 康治		配当年次	34				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	カウンセリングの知見を活かした教育相談							
授業の目的及び概要	<p>・この科目は、教員免許取得者としての必須の知識を習得するための授業である。</p> <p>・教育相談の基本は、生徒自身の自己理解と他者との適切な関係構築を支援することにある。</p> <p>この観点の基本として、まず教育相談の教育現場に必要な課題意識や理論、方法について学習する。</p> <p>具体的には、生徒の発達状況に応じた行動の理解やカウンセリングに関する基礎的知識(意義・理論・技法)などを学習し、さらにこれらの知識を持って教育相談の具体的な事例を取り上げつつ、学び、理解を深める。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html							
学修の到達目標	<p>この科目における、学修の到達目標は以下の4点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育における教育相談の意義・役割について理解している。 2. 教育相談に関するさまざまな理論や方法について理解し、その概ねを説明できる。 3. 教育相談がしうるカウンセリングの基礎的知識、技法について理解を深める。 4. 教育相談の具体的な進め方の要点、学校の組織的な取り組みと専門家などとの連携の必要性を理解している。 							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。							
フィードバックの方法	毎回の授業終了時に、授業についての理解・質問・意見・感想を記述するミニレポートの課題提出があります。その内容に関して、次の授業時に、補足説明をし、守秘義務を守りつつ回答します。そのことにより、受講者個々の理解促進と受講者全員の共通理解を図ります。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	テキストは使用しません。配布プリントを使用します。			ISBN	なし			
参考書	参考書は、必要に応じて授業時に紹介します。			ISBN				
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	50	その他(%)			
この科目の履修にあたって	受講者自身のコミュニケーションのスキルアップに役立ちます。また、教育関係の仕事だけでなく、広く社会の様々な分野に応用できる理論と実践を学べます。積極的に受講することで、「受講者自身の学校体験」を見つめ直し、対人援助に役立つ具体的な方法を知ることができます。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、Universal Passportの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	現状の教育の課題を解説する。不登校やいじめの問題、自死や不適応行動などに関する生徒の現状を解説する。「学校教育でのカウンセリングとは何か」を実践的な見地から解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第2回	心理学の基礎理論や概念について、最新の知見を取り込みながら具体的な事例の紹介とともに解説する。カウンセリングと心理療法の違い、教育に使えるカウンセリングなど、具体的な活用例を紹介しながら解説する。傾聴のポイントを具体例を紹介しながら解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第3回	児童生徒の不適応行動に対する捉え方について、事例を通して解説する。教育相談における心の問題と不適応行動に関するこれまでの経緯と対応も含めて解説し、受講者の学習課題意識を促す。受講者は自己の価値観や視点を見つめ直す機会とする。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第4回	いじめについて、現状の問題点や課題について解説する。生徒の発達段階や課題に応じた具体的な対応策を紹介する。また、心理・医療・福祉・法律等の専門家や機関との連携について紹介する。新聞やネットの記事などにも普段から注意しておく。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第5回	教育相談における査定法としての心理検査の意義と役割について解説する。自己理解と他者理解について、心理検査等を活用して自身の傾向を知ること、自己と他者の理解を深める。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第6回	教育相談に有用な検査の技法と実際例を紹介し、心理検査の結果の利用法を解説する。学校現場における活用例も紹介する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間

第7回	教育におけるカウンセリングについて、実際の場面での技法などを具体的に紹介する。また、仮想事例を基に教育相談の進め方を解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第8回	人間関係づくりに役立つワークや参考書の紹介をする。教育相談に必要な技法論(受容・傾聴・共感等)の具体的な進め方を事例を通して解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第9回	カウンセリングをするにあたり、簡潔に質問するなどの技法のポイントを紹介する。事例を通して教育相談における基礎的な技法や態度の理解を深める。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第10回	教育相談に必要な物理的・人的条件、教師間及び他の専門家(機関)との連携などについて解説する。チームとしての組織的な取り組みについて具体例を紹介し、解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第11回	保護者との教育相談について、事例を通して解説する。保護者の抱える悩みや役割、家族の抱える問題、保護者との相談のあり方など、具体的な進め方を紹介し解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第12回	発達や不登校などの課題を抱える生徒の保護者との相談の中で、陥りがちな問題点を紹介し、連携の方法を解説する。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの役割等について解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第13回	いじめや虐待の事例を通して、教育相談における具体的な対応を紹介し、解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第14回	生徒の心の問題や不適応行動などの解決の手段としてピア・サポート活動などのトレーニング内容や取り組みを紹介し、支援の方法を解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間
第15回	本授業で学修したこれまでの内容を整理し、それらを踏まえて生徒の心の健康とケアに資する教師の役割と意義について解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	4時間

科目名	教育実践指導論			開講年度	2022年度春学期			
担当者	田中 曜次			配当年次	34			
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教育実習を行うためのより実践的な力量形成と教育実習後の振り返り							
授業の目的及び概要	3年次の教育実践指導論と4年次の教育実践指導論は一体のものであり、教職関係科目で習得した理論や指導技術を教育実践的な視点から総合した教育実習のための力量形成をはかるものです。特に教育実習ガイダンスにおいては、教育実習の意義と目的、その基本的な心構えを理解し、学校経営、教員の職務、校務分掌、学級経営、生活指導の内容を学習します。教育実習のための具体的な準備や実習日誌の記入などの実務についても理解します。教育実習前に、それまでの学修をふまえて自身の教育実習の達成課題を設定し、教育実習終了後は、その体験を丁寧にふり返って総括レポートを作成し、発表・交流によってその成果と課題を整理します。これらの事後学習は教職に対する意欲をさらに高めるとともに、生徒の成長にたいする温かいまなざしと教育者としての使命感を養うことにつながります。この科目の履修にあたっては、生徒の人格形成にかかわる教職の社会的使命をしっかりとして自覚して、真摯な姿勢で受講することが求められます。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html							
学修の到達目標	教育実習とは、教育現場で生徒と直に接する教育活動を体験し、教員の仕事や学校経営、生徒の実態についての総合的な認識と理解を獲得するとともに、知識・理論・技術と実際の教育活動との相互関係を認識し、自身の実習課題をつかみ実践することです。教育実習を充実したものとするため、本科目の到達目標は以下の3点を設定しています。 ①教育実習の意義と目的を十分に理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習における自身の達成課題を設定できる。 ③教育実習体験を多面的な視点から総括し、レポート作成・発表・交流によって成果と今後の課題をあらかじめ示すことができる。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。							
フィードバックの方法	毎回の授業の中で行うディスカッションや総括レポートを基にした発表、討議のなかでコメントしていきます。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で2008年まで20年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。							
テキスト	特に指定しない。			ISBN	なし			
参考書	①中学校学習指導要領(平成29年3月告示)、文部科学省、東山書房、平成29年、ISBN：978-4827815795 ②高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)、文部科学省、東山書房、平成30年、ISBN：978-4827815672			ISBN	①9784827815795 ②9784827815672			
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	50	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	受講生の皆さんにとって、教職課程のなかで最も労力と集中力を注がねばならないものが教育実習であることは間違いありません。けれども、教育実習は教職課程におけるハイライトといえる経験であるといえます。ほとんどの受講生が春学期の期間にそれぞれの母校で教育実習をおこない、2～3週間後に本学に戻ってきます。みなさん自身は気づかないのですが、みなさんの顔つきが以前と変わったことを伝えます。みなさんは「学ぶ」立場でなく「教える」立場で、「自分の意志で判断して選択し」、「実践と省察」をくり返す体験をとおして「成長」していきます。生徒は全身で「新しい先生」を迎え、実習生はさまざまな場面での生徒の「反応」を感動的に、あるいは憔悴して経験します。こうして人間のふれあいというかけがえのない貴重な体験が教育実習であり、人生の上でも大きな財産ともなります。有意義な教育実習にするために、事前準備と事後の振り返りを精一杯してほしいと思います。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、Universal Passportの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	①授業予定と概要 ②教育実習の目的と心構え(4つの目的、準備と心構え、実習校との連絡実務) ③教育実習のイメージ化(自身にとっての教育実習の課題を考える)	授業のレジュメにある先輩の教育実習体験記を読み直して、自身の教育実習の達成課題をまとめる。	4時間
第2回	①学校の長い1日(教員の学校勤務の実際) ②学校経営と校務分掌(組織体としての学校とその実際) ③教職員、生徒との接し方(「教える立場」・指導をうける・学びあう・社会的常識)	学校の日常業務の内容をふりかえり、学校教員の仕事の特徴をまとめる。	4時間
第3回	①実習日誌の記録(書くことの意義、記入項目と記入方法、活用) ②実習期間中の過ごし方 ③レポート課題(教育実習における達成課題を設定する)	教育実習校の指導教諭の先生との接し方や指導・助言をどのように受けとめるのか、再度受講生どうして各自の弱点をおさえながらふり返る。	4時間
第4回	①ホームルーム指導の実務(特別活動、基礎集団としてのホームルーム、ホームルーム活動の目標) ②「クラスづくり」の実践例(読み合わせと分析)	中学校でのクラスづくりの実践記録を読み直し、担任としての気構えとクラスづくりの視点をふりかえる。次回分析する小学校での実践記録から保護者との連携の意味について考察する。	4時間

第5回	①ホームルーム指導の実務(学校行事の目的と意義、進め方、) ②学年担任団の役割(学年集団の指導と連携) ③保護者との連携(信頼と協力) ④課題(次回の学習指導案の目標、ねらいの設定)	配布する教科書本文の資料「南北に引き裂かれる一朝鮮戦争と冷戦一」をもとに、授業プランを構想する。	4時間
第6回	①学習指導案の作成(中学社会・歴史的分野「現代の日本と世界」の単元の指導案作成)	教育実習中に実習授業で使用する教材資料について、どれか1つをとりあげて、どのように活用するかを構想する。	4時間
第7回	①資料(文字・図・映像)の作成と使い方(PCを使用した教材の作成とプロジェクトによる活用)	配布する地形図について地形図のしくみを調べ、その地域の特徴を把握する。	4時間
第8回	①板書の作成・書き方 ②地図の作成、活用方法	教育実習を総括し、文章にまとめる。	4時間
第9回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第10回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第11回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第12回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第13回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第14回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第15回	①教育実習の成果と課題 ②教育実習をどう生かすか	「教職実践演習」にむけて自身の課題を明確にする。	4時間

科目名	教育実習 I	開講年度	2022年度春学期					
担当者	田中 曜次	配当年次	4					
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2単位					
		授業形態(方法)	実習					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教育現場の実体験の中から学ぶ							
授業の目的及び概要	高等学校の教員免許取得のために、中学・高等学校の教育現場において、実際に生徒に触れつつ、生徒理解の必要性を実感するとともに、教員の仕事や教育現場の「実際」を体験的に理解することを、目的とする。 教育実習のプロセスとしては、実習校において、授業をはじめとした教育活動の「観察」とそれらへの「参加」の段階を経て、指導案の作成とそれに基づく授業を行うことで、授業や生徒指導などについて実体験していく。							
履修の条件・注意	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程履修登録書提出者で、教職課程における諸科目の単位取得を経て、教育実践指導論(3年秋学期)の履修を経て、教育実践指導論(4年春学期)を履修中であること。 ・教職課程の科目のうち教育原理、教育心理学、教科教育法のうち最低一科目の単位取得が、教育実習参加に必須である。 ・教育実習を行う学校の「内諾」を得た者。 ・教員免許取得のための単位取得が順調で在り、当該年度において教員免許取得が見込める者。 							
DPとの関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html							
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①教育実習を行うことで、授業や生徒指導などの実際を体験し、教育者に求められる資質を確認する。 ②教育実習以前の教職課程において学修した知識・技能を実際の教育現場で活用し、教育実践に必要な知識・技能・態度を現実に即して習得する。 ③教育実習を通して、教職生活を体験することで、教職への意欲と使命感を自覚し、教員への志望を再確認するとともに、教員として成長すべき方向性や課題を発見・確認する。 							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。							
フィードバックの方法	日々の教育実習中の指導・助言、さらに日々作成する教育実習日誌へのコメント、指導案作成にあたっての指導・助言を通して行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告／実習、フィールドワーク、学外見学							
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で2008年まで20年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。							
テキスト	特に指定しない。		ISBN	なし				
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①中学校学習指導要領(平成29年3月告示)、文部科学省、東山書房、平成29年 ②高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)、文部科学省、東山書房、平成30年 		ISBN	<ol style="list-style-type: none"> ①9784827815795 ②9784827815672 				
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	50	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	<ul style="list-style-type: none"> ・「内諾」取得に関するガイダンス、さらに教育実習のためのガイダンスには、全て出席すること ・教育現場での生徒や教員との関わりを通して、実体験の中でこれまで学修したことを活用し、現実に即した理解と学修を目指してほしい。 ・実習校の指導にしがた、真剣に取り組むこと。実習中は、現場教員と同様の社会的責任が求められるので、教育実習生には、この社会的責任を自覚した言動と社会常識を踏まえた行動が要求される。 ・教育者にふさわしい話し方、服装、態度を心がけること。 							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、Universal Passportの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	実習校でのガイダンス 教育実習の意義と、実習生の持つべき心構えを踏まえ、実習校の組織や教育活動の概要を知る。	予習:実習校のことについてHPなどで確認する。 復習:ガイダンスの内容を整理し教育実習に備える。	4時間
第2回	実習校の教育活動の「観察」 実習校における生徒との接し方、服装、言葉遣いなど実習生にふさわしい行動について理解する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。 復習:参観した授業とクラスについて復習する。	4時間
第3回	実習校の「学年」の「在りよう」の観察 実習校各学年の生徒の学校生活を観察する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。 復習:参観した授業とクラスについて復習する。	4時間
第4回	実習校の「学級」の「在りよう」の観察 実習校担当学級の生徒の学校生活を観察する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。 復習:参観した授業とクラスについて復習する。	4時間
第5回	実習校の授業の観察 指導教員の学習指導の進め方を参観し、学習指導上の工夫と生徒の反応について学ぶ。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。 復習:参観した授業とクラスについて復習する。	4時間
第6回	授業の在り方の学習 教材研究の方法、授業の構築について、授業の参観と「参加」から学び、学習指導案作成の参考とする。	予習:参加する授業内容について予習する。 復習:授業に備えて教材研究を行う。	4時間
第7回	授業の「参加」と教材研究 指導教員の授業に「参加」しつつ、授業のための教材研究を行う。	予習:参加する授業内容について予習する。 復習:授業に備えて教材研究を行う。	4時間

第8回	授業の「参加」と学習指導案作成 指導教員の授業に「参加」しつつ、学習指導案を作成する。	予習:参加する授業内容について予習する。 復習:授業に備えて教材研究を行う。	4時間
第9回	教材研究と学習指導案作成 実習生が授業実習を行うための教材研究をさらに進めつつ、学習指導案作成について指導を受ける。	予習:参加する授業内容について予習する。 復習:授業に備えて教材研究を行う。	4時間
第10回	学習指導案作成と授業の準備 指導に基づいて、学習指導案作成を続けるとともに、授業を行うための準備をする。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4時間
第11回	授業の準備と予行練習 教材研究の内容をより深めるとともに、学習指導案をより練り上げ、授業の予行を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4時間
第12回	学習指導案と授業計画の確定 学習指導案を完成左折とともに、授業の進め方に習熟する。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:学習指導案に従い授業の進め方を構想する。	4時間
第13回	授業実習 実際に、実習生のみで1時間の授業を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:指導教諭の指導を踏まえて研究授業に備える。	4時間
第14回	研究授業 指導教員やその他の教員、実習生の参観のもとに授業を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:指導教諭の指導を踏まえて、研究授業の反省点まとめる。	4時間
第15回	研究授業の振り返り 指導教員やその他の教員、実習生などの参加の下に、研究授業の振り返りを行う。	指導教諭やその他の教員らのコメントを踏まえて、研究授業の改善点をまとめる。	4時間

科目名	教育実習Ⅱ	開講年度	2022年度春学期					
担当者	田中 曜次	配当年次	4					
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2単位					
		授業形態(方法)	実習					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教育現場の実体験から学ぶ							
授業の目的及び概要	中学校の教員免許取得のために、中学・高等学校の教育現場において、実際に生徒に触れつつ、生徒理解の必要性を実感するとともに、教員の仕事や教育現場の「実際」を体験的に理解することを、目的とする。 教育実習のプロセスとしては、実習校において、授業をはじめとした教育活動の「観察」とそれらへの「参加」の段階を経て、指導案の作成とそれに基づく授業を行うことで、授業や生徒指導などについて実体験していく。							
履修の条件・注意	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程履修登録書提出者で、教職課程における諸科目の単位取得を経て、教育実践指導論(3年秋学期)の履修を経て、教育実践指導論(4年春学期)を履修中であること。 ・教職課程の科目のうち教育原理、教育心理学、教科教育法のうち最低一科目の単位取得が、教育実習参加に必須である。 ・教育実習を行う学校の「内諾」を得た者。 ・教員免許取得のための単位取得が順調で在り、当該年度において教員免許取得が見込める者。 							
DPとの関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html							
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①教育実習を行うことで、授業や生徒指導などの実際を体験し、教育者に求められる資質を確認する。 ②教育実習以前の教職課程において学修した知識・技能を実際の教育現場で活用し、教育実践に必要な知識・技能・態度を現実に即して習得する。 ③教育実習を通じて、教職生活を体験することで、教職への意欲と使命感を自覚し、教員への志望を再確認するとともに、教員として成長すべき方向性や課題を発見・確認する。 							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。							
フィードバックの方法	日々の教育実習中の指導・助言、さらに日々作成する教育実習日誌へのコメント、指導案作成にあたっての指導・助言を通して行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告／実習、フィールドワーク、学外見学							
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で2008年まで20年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。							
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし					
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①中学校学習指導要領(平成29年3月告示)、文部科学省、東山書房、平成29年 ②高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)、文部科学省、東山書房、平成30年 	ISBN	<ol style="list-style-type: none"> ①9784827815795 ②9784827815672 					
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	50	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	<ul style="list-style-type: none"> ・「内諾」取得に関するガイダンス、さらに教育実習のためのガイダンスには、全て出席すること。 ・教育現場での生徒や教員との関わりを通して、実体験の中でこれまで学修したことを活用し、現実に即した理解と学修を目指してほしい。 ・実習校の指導にしがたが、真剣に取り組むこと。実習中は、現場教員と同様の社会的責任が求められるので、教育実習生には、この社会的責任を自覚した言動と社会常識を踏まえた行動が要求される。 ・教育者にふさわしい話し方、服装、態度を心がけること。 							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、Universal Passportの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	実習校でのガイダンス 教育実習の意義と、実習生の持つべき心構えを踏まえ、実習校の組織や教育活動の概要を知る。	予習:実習校のことについてHPなどで確認する。 復習:ガイダンスの内容を整理し教育実習に備える。	4時間
第2回	実習校の教育活動の「観察」 実習校における生徒との接し方、服装、言葉遣いなど実習生にふさわしい行動について理解する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。 復習:参観した授業とクラスについて復習する。	4時間
第3回	実習校の「学年」の「在りよう」の観察 実習校各学年の生徒の学校生活を観察する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。 復習:参観した授業とクラスについて復習する。	4時間
第4回	実習校の「学級」の「在りよう」の観察 実習校担当学級の生徒の学校生活を観察する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。 復習:参観した授業とクラスについて復習する。	4時間
第5回	実習校の授業の観察 指導教員の学習指導の進め方を参観し、学習指導上の工夫と生徒の反応について学ぶ。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。 復習:参観した授業とクラスについて復習する。	4時間
第6回	授業の在り方の学習 教材研究の方法、授業の構築について、授業の参観と「参加」から学び、学習指導案作成の参考とする。	予習:参加する授業内容について予習する。 復習:授業に備えて教材研究を行う。	4時間
第7回	授業の「参加」と教材研究 指導教員の授業に「参加」しつつ、授業のための教材研究を行う。	予習:参加する授業内容について予習する。 復習:授業に備えて教材研究を行う。	4時間

第8回	授業の「参加」と学習指導案作成 指導教員の授業に「参加」しつつ、学習指導案を作成する。	予習:参加する授業内容について予習する。 復習:授業に備えて教材研究を行う。	4時間
第9回	教材研究と学習指導案作成 実習生が授業実習を行うための教材研究をさらに進めつつ、学習指導案作成について指導を受ける。	予習:参加する授業内容について予習する。 復習:授業に備えて教材研究を行う。	4時間
第10回	学習指導案作成と授業の準備 指導に基づいて、学習指導案作成を続けるとともに、授業を行うための準備をする。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4時間
第11回	授業の準備と予行練習 教材研究の内容をより深めるとともに、学習指導案をより練り上げ、授業の予行を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4時間
第12回	学習指導案と授業計画の確定 学習指導案を完成左折とともに、授業の進め方に習熟する。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:学習指導案に従い授業の進め方を構想する。	4時間
第13回	授業実習 実際に、実習生のみで1時間の授業を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:指導教諭の指導を踏まえて研究授業に備える。	4時間
第14回	研究授業 指導教員やその他の教員、実習生の参観のもとに授業を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:指導教諭の指導を踏まえて、研究授業の反省点まとめる。	4時間
第15回	研究授業の振り返り 指導教員やその他の教員、実習生などの参加の下に、研究授業の振り返りを行う。	指導教諭やその他の教員らのコメントを踏まえて、研究授業の改善点をまとめる。	4時間

科目名	教職実践演習	開講年度	2022年度秋学期					
担当者	田中 曜次、武田 章	配当年次	4					
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2単位					
		授業形態(方法)	演習					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教職課程の学修と教師としての資質を磨く。							
授業の目的及び概要	この科目の目的は、教職課程における学修の総仕上げを行うことである。より具体的には、「教職に関する科目」や「教科に関する科目」の履修、教育実習を経て、それまで学修したことの振り返りや各自の今後の課題・目指すべき方向などの明確化を行う。その際、講義や演習(報告、発表、討論)、ロールプレイなどの様々な形態を組み合わせ、教育現場を意識した課題を取り扱う。前半部分(第1回～第8回)では、本演習以前に経験した教育実習などの体験の振り返りと自己の課題の発見など、自己の経験と、講義や講演から得た知識とを融合させつつ、レポート作成や報告、討論を行う。後半部分(第9回～第14回)においては、教育実習の経験を踏まえて教科の知識と授業実践の結合を図り、教材研究と模擬授業などを行う。							
履修の条件・注意	教職課程の各授業科目の単位取得、さらに教育実践指導論および教育実習を終えた者が、教職課程の学修の総仕上げとして履修する。							
DPとの関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html							
学修の到達目標	大学で学んだ知識と、教育実習などを通じて得られた経験知との結合を図り、「使命感や責任感に裏打ちされた実践的指導力を持った教員」となっていくための基礎となる、最低限の資質が形成されたことを確認する。 そうした資質形成の確認を、以下の3点を目安として行う。 ①教師としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師としての社会性、対人関係の能力 ③教科の指導力や生徒理解の力など							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。							
フィードバックの方法	演習前半部分に課したレポート課題については、演習期間中にコメントや論評を行う。演習後半部分のものについては、演習の中で行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	テキストは指定しません。	ISBN	なし					
参考書	①『中学校学習指導要領(平成29年告示)』文部科学省 東山書房(2020)ISBN-10:4827815798 ISBN-13:978-4827815795 ②『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』文部科学省 東山書房(2018)ISBN-10:4827815674 ISBN-13:978-4827815672 ③『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』文部科学省 東洋館出版社(2018)ISBN-10:4491034710 ISBN-13:978-4491034713	ISBN	①9784827815795 ②9784827815672 ③9784491034713					
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	50	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	教職課程として最後の仕上げとなる科目であるので、この科目の履修の過程で、本学として教員免許状を取得するにふさわしいか、否かの判断が行われるとよい。この点を、履修者は念頭に置いて履修して欲しい。この科目の単位取得なしでは、教員免許取得申請は出来ません。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、Universal Passportの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	教育実習や学校ボランティア、学校インターンシップなどの体験の総括と振り返りを通じて、自己課題の発見(田中) 「ふり返し」と自己課題についてレポートして次回までにまとめる。	事前:「事前レポート」の作成 事後:『事前レポート』の加筆、修正	4時間
第2回	第1回以来の総括と自己課題のレポートに基づいて報告と討論(田中) 本演習における今後の自己目標の設定	事後:「事前レポート」の完成	4時間
第3回	聖職論、労働者論、専門職論などの教師論を概観しつつ、教職の意義と役割について考察し、自己の教師像形成の糧とする。(田中)	事後:演習内容をふまえて、「レポート」の作成	4時間
第4回	「私の考える「教師の仕事」」としてレポート作成(田中) (第5回目までに完成させ、持参する)	事後:「レポート」の完成	4時間
第5回	前回に作成したレポートに基づく報告と討論(田中)	事後:演習参加者からのコメントと討論の整理と振り返り	4時間
第6回	ゲスト・スピーカーによる講演(田中) 学級経営や保護者対応の現状と課題について講演と質疑応答	事前:学校の保護者対応に関する下調べ 事後:配付プリントの学習	4時間

第7回	前回の講演を踏まえて具体的な事例研究と討論、ロールプレイ(ゲスト・スピーカーの参加)(田中)	事後: 演習内容の整理と振りかえり	4時間
第8回	ゲスト・スピーカーによる講演(田中) 学校現場における今日的課題に関する講演と質疑	事前: 学校教育における今日的課題に関する下調べ 事後: 配付プリントの学習	4時間
第9回	教員免許の「地理歴史」分野の知識確認テスト(武田)	事前: 「確認テスト」の準備学習 事後: 「確認テスト」の復習と自己の学習課題の確認	4時間
第10回	教員免許の「公民」分野の知識確認テスト(武田)	事前: 「確認テスト」の準備学習 事後: 「確認テスト」の復習と自己の学習課題の確認	4時間
第11回	教材研究と授業設計と模擬授業(地理歴史分野)(武田)	事前: 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備 事後: 演習でのコメントを踏まえての自己の課題の確認	4時間
第12回	教材研究と授業設計と模擬授業(公民分野)(武田)	事前: 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備 事後: 演習でのコメントを踏まえての自己の課題の確認	4時間
第13回	教材研究と授業設計と模擬授業(中学社会分野)(武田)	事前: 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備 事後: 演習でのコメントを踏まえての自己の課題の確認	4時間
第14回	全3回を踏まえての、教科指導力に関する総括と振り返り(武田)	事後: 本演習を踏まえての教材研究と指導案の修正および自己の課題の確認	4時間
第15回	教職実践演習を通して確認された、教職として求められる資質の振り返りと自らの課題の確認(田中)	事後: 本演習を踏まえての自己の課題の確認と「総まとめレポート」の作成	4時間

科目名	教育方法論	開講年度	2022年度秋学期					
担当者	中村 哲也	配当年次	234					
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2単位					
		授業形態(方法)	講義					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	アクティブ・ラーニングをアクティブに学ぶ							
授業の目的及び概要	この科目では、「主体的・対話的で深い学び」、いわゆるアクティブ・ラーニングの視点での授業改善について学ぶ。それはまさに一方的・一斉授業からの脱却を意味しており、この授業自体も学生が学びの中心となることを目指す。学生自ら学習課題を設定して協同して問題解決に取り組んだり、学生同士が交流を通じて思考を広げることができるような学習活動になる。また、情報通信技術を活用した教育、情報モラル教育について受講者が実際に体験したり、意見交換をしながら授業の在り方について検討する。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html							
学修の到達目標	新指導要領改訂に伴う「主体的・対話的で深い学び」について、自らが問題意識を持ち調べそれを他の人に伝えるという交流活動を通して学ぶ。それは知識を覚えるだけではなく、(情報通信技術等も活用し)情報の収集や活用能力また表現力(プレゼン能力やコミュニケーション能力)といった力を養うことにもつながる。この科目の到達目標は、以下の3点である。 1)的確に情報を収集し、まとめることができる。 2)収集した情報を的確に表現し、伝えることができる。 3)情報通信技術を効果的に活用した指導に関する基本的な知識や技能を身につけることができる。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。							
フィードバックの方法	各自が調べた内容を授業において発表する。その内容について学生の相互評価、および教員からのその都度評価を行う。作成したレポートや指導案などは授業内で取り上げ、評価及び改善点を示します。							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)/ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告/PCを用いた実技/反転授業							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	「主体的・対話的で深い学びに導く 学習科学ガイドブック」、大島 純 千代西尾 祐司、北大路書房、2019年 *テキストの内容を各自がまとめて他のメンバーに伝えたり、全体で内容を共有してディスカッションするなどの際に使用します。テキストがないと学習がすすみませんので、必ず購入してください。		ISBN	①978-4-7628-3080-8				
参考書			ISBN					
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	20	レポートなど授業外課題(%)	20	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	40	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	他の学生と協同で学ぶ機会が多くなる。欠席があると他のメンバーの学習に支障をきたす場合があるので、基本的には全授業の出席を求める。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、Universal Passportの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	・オリエンテーション及び教育方法の基礎知識(情報通信機器を活用した教育の方法を含む)	予習: 今までの授業を振り返り、どのような教え方があり、どのような教え方が効果的だったかについて考えておく(120分) 復習: 授業で紹介した教育方法について、今までの授業を振り返り、その関連性について考えておく(120分)	4時間
第2回	新学習指導要領が求める今日的課題について知る(今日の情報技術を活用した教育の意義と課題を含む)	予習: 学習指導要領の解説をもとに学習指導要領改訂についての内容について理解する。(120分) 復習: それぞれが分担した学習内容項目について、文献等で調べる。(240分)	6時間
第3回	・教育方法(各教科を横断した情報活用能力と情報リテラシーを含む)について基本的な内容をまとめる。	予習: 各自が分担した学習内容項目について調べた内容について文章としてまとめる。(240分) 復習: 各自が分担した内容について補足を加えながら、説明用のフリップを作成する。(120分)	6時間
第4回	学習内容の発表準備(情報通信技術を活用する)	予習: 学習内容をどのようにプレゼンするかのアウトラインを考える(120分) 復習: 学習内容を説明するためのプレゼンを作成する(240分)	6時間
第5回	発表内容の確認(情報通信技術の活用をする)	復習: 各自が制作したプレゼン資料を見て、内容をまとめるとともに講評をまとめる。(120分)	2時間

第6回	(情報通信技術を活用した)発表内容の振り返りとまとめ	復習:各自の発表の内容を自分なりにまとめ理解する。(120分)	2時間
第7回	内容に関する確認テスト	復習:確認テストの内容を振り返り、十分理解できていなかった点について確認しておく。(120分)	2時間
第8回	教育方法に関する課題の設定	予習:いわゆるアクティブ・ラーニングの視点での授業方法についてどのようなものがあるか調べておく。(120分) 復習:自分が設定した学習課題に関する内容を文献等から調べる。(240分)	6時間
第9回	設定課題ごとの情報集めとまとめ	予習:各自が分担した学習内容項目について調べた内容について文章としてまとめる。(240分) 復習:各自が分担した内容について補足を加えながら、説明用のフリップを作成する。(120分)	6時間
第10回	課題内容の発表準備	予習:学習内容をどのようにプレゼンするかのアウトラインを考える(120分) 復習:学習内容を説明するためのプレゼンを作成する(240分)	6時間
第11回	課題発表内容の確認	復習:各自が制作したプレゼン資料を見て、内容をまとめるとともに講評をまとめる。(120分)	2時間
第12回	課題発表内容の振り返りとまとめ	復習:各自の発表な内容を自分なりにまとめ理解する。(120分)	2時間
第13回	課題内容に関する確認テスト	復習:確認テストの内容を振り返り、十分理解できていなかった点について確認しておく。(120分)	2時間
第14回	これまでの教育方法に関する内容に関するまとめと確認	予習:学習指導要領を参照しつつ、主体的・対話的で深い学びが何かを理解しておく。その上で、主体的・対話的で深い学びを支える授業づくりの事例について調べておく。(120分) 復習:主体的・対話的で深い学びを支えるために自らが考案した具体的な授業のしかけについて他者に説明できるようにする。(120分)	4時間
第15回	教育方法に関するレポートの作成	予習:今までの学習を振り返り、自分なりの言葉で説明できるようにする(120分) 復習:教育方法に関する学習内容に関しての相互評価などから、自分の学習に関して理解が不十分だった点などについてまとめる(120分)	4時間

科目名	教育方法論	開講年度	2022年度春学期					
担当者	北川 剛司	配当年次	234					
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2単位					
		授業形態(方法)	講義					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	学習活動の理論的・実践的探究							
授業の目的及び概要	この科目では、教育科学の立場から提案されてきた主要な学習指導の理論について概説する。また、各理論を背景に開発され実践されてきた教育方法や技術、情報通信技術を活用した教育、情報モラル教育について、受講者が実際に体験したり、意見交換をしながら授業づくりのあり方を検討する。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html							
学修の到達目標	教育の情報化の動きの中で、教育方法に期待されていることを理論的・実践的に学ぶとともに、子供たちが教育内容に取り組む際にそれを支援する学習環境の在り方を、事例研究及びカリキュラムデザインの実際を通して学ぶ。 この科目の到達目標は以下の4点である。 1) 教育方法や授業設計・評価に関する基本的な理論や方法を理解している。 2) 教育方法(情報通信技術の活用を含む)に関する基礎的な事項や方法を理解している 3) 指導案の作成や分析を通して実際の授業設計をすることができる。 4) 情報通信技術を効果的に活用した指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。							
フィードバックの方法	主として各授業の前後の休み時間等を使って、授業への取り組みの様子や達成についてフィードバックを行う予定です。また、必要に応じて、授業中の提出物にコメント記入をし返却を行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	①中学校学習指導要領(平成29年告示)、文部科学省、東山書房、2018年		ISBN	①9784827815795				
参考書	①佐藤学『教育の方法(放送大学叢書)』左右社、2010年。 ②田中耕治編『よくわかる教育評価 第二版』ネネルヴァ、2010年。		ISBN	①ISBN-10 : 4903500349 ②ISBN-10 : 4623059146				
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	30	小テスト・理解度テストなど(%)	30	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	40	その他(%)			
この科目の履修にあたって	教職を目指すみなさんは、「よい授業とはどんなものだろう」と考えたことがあると思います。本授業ではこの問いに受講後に各自が答えられるようになることを目指します。よい授業ができるようになると、子どもにとってよいというだけでなく、教師にとってもやりがいや自信につながります。よい授業についての目指すべき方向をまずは理解することが大切です。よい授業についてのイメージを受講者全員で深めていきましょう。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、Universal Passportの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	学力論争について理解し、何が問題として指摘されているのかを考える。そして学力を子ども達が身につけていくために何が可能かを教育方法から考える。また学校が社会の求めるものとのかわりでのように変遷してきたか、今何が求められているのかという現在の教育課題を理解する。	・事前に平成29年度告示 中学校学習指導要領解説(総則編)pp.1-5を読んでおくようにしてください。	2時間
第2回	教授学のキーワード(アクティブ・ラーニング、発問づくり、教材づくり)を紹介し、それにもとづいて、実際にどのような教育方法が求められるかについて考えます。	・第1回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第3回	「教育方法」に関するキーワード(授業規律、授業形態、協同学習、情報機器の活用、など)を紹介し、それにもとづいて、実際にどのような教育方法が求められるかについて考えます。	・第2回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第4回	意図的な教育的働きかけである「授業」をデザインする場合、目標の設定が重要となる。目標は達成可能な目標なのか、方向を指し示す目標なのか、など、授業の目標設定をどのように考えていくのか、その手続きと方法を学ぶ。また目標の達成を確かめ、目標設定自体をいかに評価するのかにあついてもあわせて考える。指導案作成2(目標の作成)	・第3回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第5回	授業は、教授活動と学習活動が効果的に機能するときとその成果を生み出す。そのため、ここでは、学習活動を支援するための考え方を、先行する学習理論を通じて学ぶ。	・第4回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。 ・第5回授業中に配布した新学習指導要領の重要事項に関わる資料を使って復習を行ってください。	4時間

第6回	授業は、子ども達の学習スタイルや認知スタイルによって多様な形態をもつ。子どもの学びに可能な限り即した柔軟な授業方法を考える。	・第5回授業後に配布する資料を必ず授業の後読んで予習をしてください。	4時間
第7回	授業において、教師が語る、子どもが語る、お互いに話し合う場面に着目し、個別指導と集団指導におけるコミュニケーションについて考える。指導案作成3(本時の展開の記入方法)	・第6回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第8回	子どもにとって学びたい状況を導く教材はどのような設計コンセプトを持つといいのか？ここでは作成方法を学ぶ。	・第7回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第9回	子ども達の学びを支援するものとして教材教具、学習環境がある。どのような環境が子ども達の効果的な学びを導くのかを探る。	・第8回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第10回	子ども達の学びをどのように評価するのか？評価に関する基礎を学び、相対評価、絶対評価、個人内評価それぞれの長所と短所を学ぶ。そしてその効果的な連携利用を考える。	・第9回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。 (特に、前近代、近代、現代の授業論の特徴が分かるように整理しておくこと)	4時間
第11回	授業実践の計画書としての指導案について考える。その作成の基礎知識を身につける。(単元案と本時案の作成)	・第10回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第12回	課題として出された指導案作成を通して、中学校社会の単元案と1時間の授業をデザインする方法、その実践的な知識を身につける。	・第11回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第13回	デザインした指導案のそれぞれの課題を互いに検討し合い、実践イメージを深め、確かな指導案作成のポイント、その知識をおさえる。	・第12回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第14回	課題やある場面に即した指導・対応の仕方をデザインし、互いに検討し合い、実践イメージを深める。	・第13回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第15回	これまでの講義を振り返る。授業に関する基本的な知識を習得し、理解を深めることができたかどうかを確認する。	・第14回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。 ・教育課程の近年の定義と指導案の対応について説明できるようにしてください。 ・教育評価の基本的な考え方としてのパフォーマンス評価、ルーブリックについて説明できるようにしてください。 ・授業実践における陶冶と訓育の理論について説明できるようにしてください。	6時間